

股関節ガイドライン 重要用語・略語

変形性股関節症

変形性股関節症

変形性股関節症（osteoarthritis of the hip）は、関節軟骨の退行性変化をきっかけに股関節の関節破壊・変形をきたす疾患であり、原疾患が明らかでない一次性と、何からの疾患・病態に続発する二次性に分けられる。

非炎症性疾患

二次性の原因として、関節リウマチなどの炎症性疾患や感染性股関節炎なども含まれるが、わが国では、寛骨臼蓋形成不全などの骨形態の異常に続発する二次性のものが多い。

発育性股関節形成不全

発育性股関節形成不全（developmental dysplasia of the hip: DDH）は、小児の股関節疾患の 1 つで、狭義には周産期および出生後の発育過程で大腿骨頭が関節包の中で脱臼している状態をいう。しかし、広義には出生前後の股関節脱臼に加え、亜脱臼（不安定股）や将来脱臼をきたす可能性を有する寛骨臼形成不全を含めた脱臼準備状態にある股関節のすべてが含まれる。以前は、先天性股関節脱臼（congenital dislocation of the hip: CDH）と称されていた。

生活指導

普段の生活の中で股関節への負担を減らすための工夫、注意すべきこと、あるいは家庭等での運動指導などを行うこと。

ホームプログラム

筋力増強運動やストレッチングなど、運動機能の維持・改善を目的に患者が自宅でできる簡便な運動プログラムのこと。

人工股関節

人工股関節は、大腿骨側のステムと骨頭、寛骨臼側のカップおよび、インサートで構成される。人工股関節全置換術（total hip arthroplasty: THA）には、骨セメントを使用するタイプと使用しないタイプがある。

骨切り術

自身の骨を利用した関節温存術であり、臼蓋側の骨切りを行う手術（Chiari 骨盤骨切り術，寛骨臼回転骨切り術，寛骨臼形成術）と，大腿骨側の骨切りを行う手術（内反骨切り術，外反骨切り術） などがある．

応用歩行練習

歩行障害は主に基礎的能力の障害（安定性の障害），応用的能力の障害（速度，持久性，障害性，自立性），総合的能力の障害（実用性の障害）に分類される（窪田, 2000）．本ガイドラインで使用する応用歩行練習とは，主に歩容改善，持久力向上，階段昇降練習を指す．

加速的術後プロトコル

加速的リハビリテーションともいう．早期リハビリテーションのゴール設定，術後 24 時間以内の運動療法開始，身体自立性訓練の強化，退院に向けての詳細なプランニングを指す．